

特定非営利活動法人

島根県介護支援専門員協会

会報

vol. 25

発行日 平成 31 年 1 月 25 日

発行者 特定非営利活動法人

島根県介護支援専門員協会

住 所 島根県松江市白潟本町 43 番地

スティックビル 3 階

電話・FAX 0852-60-5389

Mail shimane-caremane@knh.biglobe.ne.jp

新年のご挨拶

島根県介護支援専門員協会 副理事長 石飛 智朗

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては新しい年をいかがお過ごしでしょうか。日頃は当協会の活動に対しましてご理解とご協力をいただき感謝を申し上げます。

さて、昨年も研修会を中心に様々な活動を行ってきました。特に第16回島根県ケアマネジャー研究大会には200名近い方に参加いただき、盛大に開催することが出来ました。

この大会では、テーマを「意思決定を支援する」、サブテーマには“最後まで望むように暮らしたい”その意思を支援する～プロセスとケアマネジメントを考えよう～としました。守屋おさむクリニック院長守屋修先生の「最後まで望むように暮らしたい その想いを支援する」という基調講演では『心』が動かされ、京都介護医療総研株式会社 吉良厚子先生の「最後まで意思決定を支援する～ケアマネの役割とマネジメント」の講義では『頭』が動かされ、そして事例報告、研究発表と一日を通し「意思決定を支援する」ことを考える機会となりました。私たち介護支援専門員は、その方が出来るだけ住み慣れた地域で、最期まで尊厳をもって自分らしい自立した生活を営むことが出来るように支援することが仕事です。意思決定を支援することがその基本となること学んだ1日でした。

話は変わりますが、私は昨年度より日本介護支援専門員協会の代議員として、日本協会の会議に参加しています。その中でしばしば協会の会員数について話題に上ります。島根県協会では現在、地区（県・地域）にだけに入会するか、日本協会にも入会するかは各会員の希望となっており、地区の会員数は888名、うち日本協会の会員数は104名で、日本協会への加入者を増やすことが島根県協会の一つの課題となっています。日本介護支援専門員協会への入会について「意味がない・メリットがない」といった声をよく聞きます。果たしてそうでしょうか？ 制度改正のたびに私たち介護支援専門員は働きにくくなっていると感じます。そのような中、日本協会の役員の方々は介護支援専門員の地位向上や働きやすい制度を創る為に、様々な場面で国に対して私達を代表して意見や提案をおこなっています。会員の組織率はその意見の後押し、重みにつながります。それこそが職能団体に加入する一番のメリットではないでしょうか。

介護支援専門員協会は研修会などの開催も行いますが、介護支援専門員としての資質の向上と専門職として認められる為の、自らが活動する場でもあります。今後お互いに協力しながら利用者の尊厳を守る為、自分たちの資質向上を目指して共に頑張りましょう。

第16回 島根県ケアマネジャー研究大会に参加して

居宅介護支援事業所 あゆみの杜 早戸 俊二

この度の研究大会は「意思決定を支援する 最後まで望むように暮らしたいその意思を応援する」をテーマにして開催されました。特に基調講演での守屋先生の講演は利用者の思いや選択(自己決定)を支援するために介護支援専門員としての姿勢、利用者・家族との関係性など多くの気づきを得ました。具体的には利用者と「常に誠実に真摯に耳を傾けること」「丁寧に正確に説明すること」「よき理解者になること」「謙虚に寄り添うこと」を普段の関わりの中で実践していくことです。また、その利用者に関わる職種がチームとして話し合いを繰り返しながら利用者の意思決定を支援することの大切さを学び、それを実践できる介護支援専門員でありたいと思います。



医療法人守屋おさむクリニック
院長 守屋 修先生



ゆめ福 居宅介護支援事業所 多根 暁子



京都介護医療総研株式会社
代表取締役 吉良 厚子先生

この度、島根県ケアマネジャー研究大会で事例報告をさせていただきました。

事例においては、自分なりに一生懸命ご本人の思いを支援したつもりではいましたが、振り返ってみると、役割を超えた過剰な支援であったり、ともすれば、私の考える最善がご本人にとっての最善だと思って支援してしまった場面もあったように思います。

又、無意識のうちに「家族＝介護者」と捉えていたとも気づかされました。支援の終盤まで長男の嫁のみを「家族」と考え、家族の捉え方が狭かったように思います。守屋先生のたくさんの事例の中の、同じ部屋で食事をするだけの子供たちや、ご本人の好物を買いにいく娘の姿が報告事例とリンクし、家族の在り方はいろいろあり、その全てがご本人の思いを支えるものであると知ることができました。そして、ご本人の思いを中心におくことが、ご本人ご家族の力を最大限に引き出し、その力によって、自ら様々な課題を解決していかれるのだと思います。

ステージ上での公開事例検討の形はとても緊張しましたが、吉良先生の適切な導きに会場からの質問が重なり、自分が事例の中に入り込みすぎて客観的な視点を持つことが出来ていない事にも気づくことができました。

事例報告を通して、「意志決定を支援する」ためのケアマネジメントとは何かを改めて考え直す貴重な機会を頂き、感謝致します。



第15回 山口県ケアマネジメント研究大会 日本介護支援専門員協会 中国ブロック研修会に参加して

雲南地域介護支援専門員協会 本間 加織

『看取りケアについて考える～チームアプローチでのケアマネの役割～』を掲げ、講演、分科会、日本協会からの活動報告等、色んな刺激を受ける研修会でした。

「アドバンス・ケア・プランニングにフレイルの知見を活かす」と題して、東京大学 死生学・応用倫理センター 上廣講座 特任教授の会田薫子先生の講演があり、ACP は書面作成がゴールではなく、大切なのはコミュニケーションを促進するものであること。また、医療行為の目的は人生の物語も含め、本人視点から設定。今後の高齢者医療とケアは、ACP にフレイルの知見を活かし、フレイルが進行していく中では緩和ケアのアプローチが必要となると話され、その方の人生の最終段階に向けての「人生会議」の重要性を感じました。

また、日本介護支援専門員協会の活動報告では「今、介護支援専門員に言われている事、起きている事の当事者は皆さん達自身です」の一言が印象に残り、改めて「組織力」「発信力」の大切さを感じました。

研修会最後のお楽しみ大抽選会。山口県の皆さんの賑やかな雰囲気には最後の最後まで楽しませて頂きました。



中国ブロック会議での研修相互乗入れに係る調印式



飯南町地域包括支援センター 嘉田 将典

平成30年10月27日に山口県で開催された第15回 山口県ケアマネジメント研究大会 日本介護支援専門員協会 中国ブロック研修会にて、「飯南町における看取りのケースを振り返って～在宅看取りが身近な地域に向けて地域包括支援センターが果たす役割についての考察～」というタイトルで研究発表させていただきました。大会のテーマは「看取りケアについて考える～チームアプローチでのケアマネの役割～」であり、他の発表も看取りケアにおける介護支援専門員の役割といった内容が多くありました。今回の大会参加を通して、人生における様々なライフステージの中で介護支援専門員に求められる役割や期待は高まり、ケアマネジメントを通して本人・家族・地域・専門職をつなぎながら地域づくりに向けた支援を行うことが今後更に重要になると感じました。

また、当日参加された他県の介護支援専門員協会の皆様や運営をされた山口県介護支援専門員協会役員の皆様との交流を通して、島根県介護支援専門員協会会員としても多くの知見をいただきました。

今回の学びをこれからの介護支援専門員としての職務や職能としての島根県介護支援専門員協会での活動に活かしていきたいと思います。

施設ケアマネジメント研修について

ケアマネマネジメントかえで 大森 和子

去る平成30年11月26日 出雲パルメイトを会場に施設ケアマネジメント研修が開催されました。全県から38人の参加がありました。企画サイドから研修の感想を書かせていただきます。

今年度は昨年度に引き続き島根県社会福祉士会会長の岡崎正興氏に講師をしていただきました。

昨年度はソーシャルワークについて基礎的な学習を行いました。今年度はより実践に活かされるような講義と演習を企画致しました。

今年度の研修のキーワードとして『どのような環境にあっても』『ありたい自分の実現』『クライアントを理解すること』をあげています。

講義の中で一番印象的だったのは、クライアントと信頼関係を築くことがすでに支援であるということです。岡崎先生は研修の中で『クライアントとともに』『クライアントと一緒に』という言葉の繰り返されました。自分自身が援助者としてクライアントとの信頼関係を築くことの重要性をどの程度意識していたか振り返る機会となりました。

また、クライアントとの信頼関係を築くための『面接』の重要性について学びました。

今この面接が今後の支援過程に大きく影響することを常に意識していかなければならないと改めて思いました。

演習では『クライアントを理解すること』について理解を深めました。

理解するためには『ライフイベント、歴史』『ジェノグラム、ファミリーマップ、エコマップ』を整理したうえで『(援助者として)わかっていないこと』『その人を知るための社会資源はなにか』を確認していく作業を行なうことで、クライアントの望む生活 → ありたい自分が浮き彫りになっていく過程を体験することができました。

人は本気で自分を理解しようとする人に信頼を寄せること、十分でなくても理解しようと努力する人を信頼していくことを実感し、私たちは援助者としてのその姿勢を面接を通してクライアントに伝えていかなければならないと思います。

この研修に参加していただいた皆さんが現場での実践に活かされ、今後クライアントの望む生活の実現に向けてよりよい支援ができる事を願っています。

主任介護支援専門員フォローアップ研修に参加をして

松北地域包括支援センター 糸川眞由美

はじめに、主任ケアマネジャーに期待される役割は多くあるので、わたしは、主任ケアマネジャーに期待される役割を自分自身の意識を深める目的と現場で活かすスーパービジョンを学んで、スーパービジョンが実現できるようになるために研修参加をしました。

介護支援専門員は、自己実現のために考える過程の中でストレスが生じやすくなります。それは、相手が人なので感情があるから生じやすくなると言われています。具体的には、当事者との関係・組織内の対人関係・多機関多職種との対人関係が、自己実現を図ることにより起きると言われています。介護

支援専門員の援助を支える主任ケアマネジャーは、支持的機能をベースに、教育的機能、管理的機能を使い分けることで、効果的なスーパービジョンができると学びました。また、野中式事例検討では、事例提供をさせて頂きました。この事例検討で、見立てや手立てを考える構造がある事を学びました。参加された主任ケアマネジャーの方から、野中式事例

検討を事業所などでやってみようと言う声が聞かれました。

今回、フォローアップ研修を受けまして、たくさんの学びを得ることが出来まして、私の財産となりました。講師先生や企画してくださった役員の方に感謝しています。



フォローアップ研修(西部)に事例発表者として参加して

大田地域介護支援専門員協会 清水 信江

主任介護支援専門員フォローアップ研修西部会場で事例を提供させていただきました。

東美奈子先生の講義は分かりやすく、主任ケアマネとして日常的にどんな役割を果たさなければいけないのか、自分の中にずっと入ってきたように思います。

事例検討の演習では、先生や参加者からの質問で、私自身が目の前にいる利用者・家族しか意識し

ていなかったことに改めて気づきました。主任ケアマネとして担当ケアマネより一歩引いて、利用者の周りにいる人たちがどのような関係性や強さをもっているのか、しっかりアセスメントしてアドバイスやフォローしていくことが大切だと感じました。

今回の研修で得たものを職場での実践や、地域協会での活動に活かしていきたいと思います。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。



「地域でその人らしく暮らすことを支えるプランの視点」

～どのような環境においても こうありたい自分を実現するために～ に参加して

小規模多機能型居宅介護 あさひ乃苑 岡本 千佳

今回はそれぞれ持ち寄った事例を発表し、その中から一事例を深めていくというグループワークメインの研修でした。

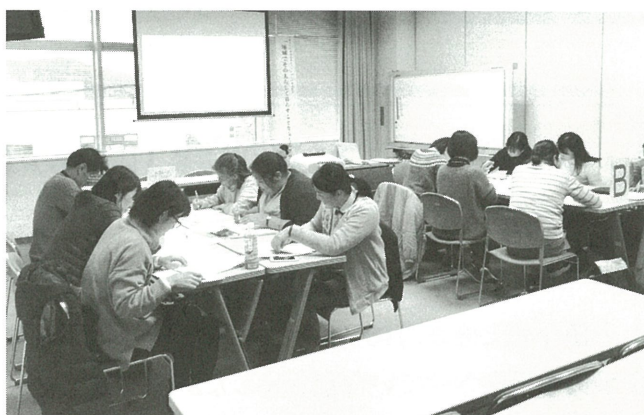
私は小規模多機能、居宅、施設(特養)の方と一緒のグループで、それぞれが持ち寄った事例は、ケアマネの思いが詰まっている事例ばかりでした。そして「みんなが色々なことで悩み・考えているのだな……」と改めて実感しました。

また、その中の一事例を深め、丁寧に「意向」→「援助の方針」→「課題」→「目標」を決めていきました。普段も「その方がどうありたいか……」「その人らしさ」を考えてプランを作成している気ではありますが、いつも以上に一つ一つ悩み・考えました。また、皆さんの意見から違う視点を見つけ「なるほど確かに……」と感心したり、「そうそう」と共感したり、とても勉強になりました。

今回の研修が、改めて「その方がどうありたい

か……」「その人らしさとは……」を色々な視点からじっくりと考えるきっかけとなりました。

私が働いている小規模多機能は「その人らしさ」を叶えるための代表的サービスです。グループワークの中でもポイントとなったワード「笑顔で過ごす」。これからも、その人らしく笑顔で過ごせるよう、今回の研修で得たことを活かし頑張っていこうと思います。



編集後記

2018年度2回目の広報誌をお届けします。

島根県ケアマネジャー研究大会も、皆様のご協力により12月1日に無事終了する事が出来ました。ご参加いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。また、11月後半から12月中旬にかけて県協会主催の研修が集中し、皆様にはご負担をかけることとなりましたことをお詫び申し上げます。来年度は一時期に集中することのないよう早めに計画していきたいと思います。

新たな年、皆様のご健勝とご多幸を祈念しております。今年も島根県介護支援専門員協会を宜しく願います。

(清水 信江)

